

図書館だより

vol.3

2025. 2. 10



目次

「人生はワンチャンス！」	校長 坪井泰士	2
図書館長挨拶	図書館長 牧野伸義	3
学生図書委員の活動紹介	学生図書委員会 副委員長	3
思い出の一冊	電気電子工学科 大山哲平、都市・環境工学科 永井麻実	5
教員推薦図書		6
令和6年度読書感想文コンクール及び図書貸出上位者表彰式		7
令和6年度読書感想文コンクール上位入選作品		8
令和6年度読書感想文コンクール講評	一般科文系 広瀬裕美子、学生図書委員会委員長	11
令和6年度学生図書委員名簿		12
令和6年度読書感想文コンクール入選者及び図書貸出上位者		12
編集後記	図書館長補佐 田中美穂	12



人生はワンチャンス！

校長 坪井 泰士

なにごとにも前向きにとらえるようにしています。だって、くよくよしても何も変わらないから。

反省はしても、へこまない！ というのは目指している理想で…まあ実際にはグダグダな日々を送っているのです。

そんなときに開くのが、この本。「人生はワンチャンス！」と「人生はニャンとかなる！」です。可愛い犬や猫の写真とあわせ、例えば次のようなメッセージを届けてくれます。

「世界記録より、自己ベスト」

プロ野球のイチロー選手は、あるとき、ホームラン王争いをしている選手からその重圧による苦しみを聞いたそうです。その時イチロー選手は「ホームラン王になりたくて野球をやっているんですか」と聞き返したそうです。

同書は、続けてイチロー選手の「誰かに勝ったときでなく、自分が定めたものを達成したときに満足できる」という言葉を紹介します。

正直、私はその境地には至っていません。教員として誰にも負けたくないと励んできました。誰よりもうまく授業したい、外部資金をたくさん獲得したい、学生から慕わりたい…もう、ブレブレですね。他からの評価に右往左往してきた私がそこにいます…恥ずかしい。

でも、そのような他に負けたくないという気持ちを、すべて否定しようとは思いません。その時々にも必死にあがいてきた自分はちょっと切なくて、いとおいしいものです。それがあるからこそ、今は、少しだけ自分がどのように変わったかを考えられるようになってきました。

他と比べず評価軸を自分の中に置く…なんと難しいことでしょう。イチロー選手のぶれない自分軸には遠く及ばないけど、少し肩の力を抜いて歩めるようになってきたようです。

この本は、私を励まし、立ち止まって考える機会をくれました。何の気なしに手にしたところ、キュートでユーモラス、そして切ない犬と猫と写真とともに、押しつけがましくないメッセージがそこにありました。

当時、とくに大きな失敗をしていたわけではなく、逆に何かを成し遂げて図に乗っていたわけでもなかったように思います。ある意味、平常運転だったからこそ、そのメッセージがしみいったのかも知れません。

ふと気づくと、いつもすぐそばにあるような気がする本で

す。本から教訓を得ようとか、そのメッセージで反省しようとかは、これっぽっちも思いません。ふとした瞬間に、「あ～、そうだよな」って感じるだけなのです。それでいいんじゃないかなって思うのです。

現実世界で体験することは大きな意味を持ち、時に人生を変える契機となるでしょう。そして、本や映画・音楽もおなじような力を持っているのです。文字をとおして自分を顧み、映像に夢を抱き、旋律に心震わせる体験をしたことはありませんか。私にとって、本は時に友人であり、時に家族でありました。そんな本に出会えたことで、人生はたしかに豊かなものとなりました。

みなさんにぜひお勧めしたいのは、繰り返して読みたい本に出会うことです。ワクワクやドキドキ、ハラハラがそこにあります。笑いや涙、感動が私たちを包みます。本には、映像や旋律がない分だけ、ダイレクトに迫ってくるようにも思えます（これは、映画や音楽を否定するものではなく、それぞれに役割が違うってこと）。

そんなすてきな本を紐解くとき、それはこの上のない極上の時間となります。

How to 本は別として、何かを得るために本を読むのじゃなくて、うまく言えないけど息するように自然に文字を追い、「へえ～、そうかもね」って思うのがいいんだと、今日も読書してます。

現在、出張中のホテル。まもなく23時。今日一日、わりと本気で励んでへろへろです。明日もめいっぱい仕事だけど、このあとお茶をすすりながら本を読みます。

そこにあるのは、「えっ？」なのか「なるほど」なのか、はたまた「よ～し！」なのか。

本を手に寝落ちするのも、また一興…

図書館長 挨拶

一般科理系 牧野 伸義

図書館といえば、試験勉強するところだと思っている人が多いですが、情報の収集の場でもあります。インターネットを使えば、ほしい情報はすぐ見つかりますね。でも、それが本当に自分に合った情報でしょうか？文章が短くまとまって誰もがわかる程度のも、またはメモ書きのような意味不明なものが多いようです。図書館なら、本当に自分に合ったものが見つかるかもしれません。また本なら論理が長く展開されているので、深い理解が得られることもあります。

またYouTubeは自分の見たいものしかリストに掲載されない傾向にあるようです。図書館ではたまたま目に入った棚の本が、以前、探していたものかもしれません。思わぬ発見がありますよ。

そしてよさそうな本があったら借りて読み始めてください。そんなあなたのために貸出期間を2週間にしました。

学生図書委員の活動紹介

こんにちは！学生図書委員です。みなさんは読書にどのような印象をお持ちでしょうか。私にとって読書は勉強でもあり、娯楽でもあります。しかし、本を読み始めるまでがしんどいですよね～。

さて、話を変えてこれからは、図書委員会が行っている活動を紹介していきたいと思います。

(5M 立花)

学生図書委員会

図書委員会は前期・後期でそれぞれ一回ずつ集まり、図書委員の今後の方針などを話し合います。例えば、委員長・副委員長の決定や読書感想文の審査員選定、活動の内容確認などです。

(5M 立花)

読書感想文コンクール

今年もたくさんの応募ありがとうございました。私は今年、読書感想文の審査員を務めさせて頂いたのですが、みなさんの文章力・着眼点には驚かされてばかりです。自身が経験した事との結び付け方や、端々の文章から書いた人の個性が出ていて面白かったです。文学の奥深さを改めて考え直すことができました。読書感想文を書く機会はあっても、読む機会は中々ないので、図書委員になったら審査員をやってみても面白いかもしれませんね。

(5M 立花)

読書会

今年度から、図書委員会で始めた読書会。図書委員が集まりそれぞれ好きな本についてプレゼンをします。

今年は図書館長の牧野先生も参加してくれました。図書委員以外の方でも参加可能ですので、ぜひ参加してみてください！

(5M 立花)

ブックハンティング

今年も皆さんの参加ありがとうございました。自分は今年も図書委員として参加させていただきました。今年も高専図書館に取り入れる本が何冊もあり選んでくれた方に感謝の気持ちでいっぱいです。今年参加できなかった人も、少しでも本に興味ある人はぜひ参加してください！

(1C 甲斐)



おすすめの本紹介

『おすすめの本紹介』とは、皆さんがおすすめしたい本を紹介できるシステムです。紹介文の形態は文書でもイラストでもポップでもなんでもOKです！ 皆さんが作った紹介文は図書館の方で飾らせていただきます。興味がある方、ぜひおすすめ本を教えてください！

(5M 立花)



学生図書委員おすすめの本

かがみの孤城

辻村深月

自分のおすすめをする本はかがみの孤城です。この物語は学校や人間関係に悩む7人の少年少女が不思議な「鏡の孤城」に招かれる物語でそこでは願いをかなえる鍵を探すルールがありました。やがて彼らの過去や城の秘密が明らかになり、孤独や生きづらさを抱える彼らが絆を深め、希望を見出していく姿に僕も心を動かされました。驚きと感動に満ちた結末読後にやさしい余韻を残します。ぜひ読んでみてください。

(1C 甲斐)

秘密

東野圭吾

私が紹介する本は「秘密」です。

あらすじ：39歳の杉田平介の妻・直子と小学5年生の娘・藻奈美が乗ったバスが事故でげから落ちてしまう。

妻は亡くなり葬儀がとり行われたのだが、その夜に意識を取り戻した藻奈美には、亡くなった直子の魂がのりうつっていた。誰にも言えない秘密の生活を送ることになった平介だが……。

東野圭吾さんの小説は本当に面白いです。「白夜行」や「マスカレードホテル」などの名作も多い中、特に名作中の名作だと思ったのが「秘密」です。東野圭吾さんの書く人間模様が秀逸で、読んでいて、飽きない作品となっています。また、伏線の回収の仕方が丁寧で何度読み返しても凄いとしか言葉がでません。ドラマ化もされていて、ぜひ一度は読んでほしい・見てほしい一作です。

(5M 立花)

思い出の一冊



大学教授になる方法／鷺田小彌太

電気電子工学科 大山 哲平

私は学生時代から理系の専門書以外にほとんど本を読まない人間ですが、思い出の一冊ということで、数少ないラインナップから紹介させていただきます。

この本は大学教授になるためのハウツー本という体裁で、あくまで当時のですが大学教員の実態がかなり赤裸々に記されています。その中で、大学教員はさほど給料は良くはないものの自由に研究テーマを決められ拘束時間も無く、社会的ステータスの高い「おいしい職業」であるといったことや、辺境の私立大学で出身校の学生をそのまま採用するケースが少なくないことから、難関大学など出なくても実は誰にでもなれる、といったとにかく敷居を下げる形で書かれています。私は本校の2年次に読み、是非この「おいしい職業」を目指したい、などと思った記憶があります。ただ実際には当時ですら有閑マダムのような教員は、余程の「豪傑」を除いて居なかったとは思いますが。※ちなみに高専教員は高い学歴が求められる「狭き門」と書かれていました。

さてこの本が書かれたのは30年以上も前で、状況は大きく変わっています。かく言う本校も教育に対して厳しい外部評価にさらされるからでしょうか、私が在学していた頃のいい加減さは無く、立派なポリシーと教育計画、丁寧な授業や実験レポートへの丁寧な赤入れ、授業を理解するための演習科目など、ずいぶん「きれいな川」になったものだと思います。実はこの本には、大学教員という職業を世間に開示することで志望者を増やし、競争を促すことで教員と教育の質を上げるという裏テーマがあるのですが、図らずしてそのような流れになっているとは思いますが。

一方で民間と比較して給与が低い割に、多岐にわたる仕事をこなさなければならない教員という仕事に果たして志願者は居るのか、と昨今の小中高の教員に似た状況もあるような気がします。もちろん高専教員には好きなテーマで研究が許されるなど、裁量という何物にも代えがたい「やりがい」がありますが、それだけでなり手が居る時代でもないだろうとも思っています。ということで言い訳にしかありませんが、私は高専教員という仕事をサステナブルなものにするために、多少「川を汚してしまう」かもしれません、どうかご容赦下さい。



ボッコちゃん／星新一

都市・環境工学科 永井 麻実

中学・高校時代、本に夢中になりすぎて授業中にこっそり読んで先生に没収されたことを思い出します。社会人になった今では紙の本を手取る機会が減ってしまいましたが、それでもKindleなどで探して読み返すのが星新一の作品です。星新一といえば「ショートショート」と呼ばれる超短編小説で有名ですが、その多くはロボットや宇宙などが登場するSF（サイエンス・フィクション）作品です。短いながらも深く、結末がはっきりとは書かれていないので、自分で想像して背筋がゾッとしたり、「こんな未来があったら面白いかも」とワクワクしたりする、不思議な感覚に引き込まれる作品ばかりです。

なかでも『ボッコちゃん』は、私が好きな作品の一つです。自動的に人と会話するロボットが登場し、人間社会の皮肉を描いた物語ですが、読後には現代社会やテクノロジーとの向き合い方について考えさせられます。この本は、笑える要素がある一方で、人間の行動や感情の裏側にあるものを鋭くえぐり取るようなテーマが含まれています。そのため、楽しむだけでなく、どこかで自分自身に問いかけるきっかけにもなります。

さて、私が高校生だった頃と比べると、周囲の技術や社会のスピードは大きく変わり、今では「未来志向」や「イノベーションを起こそう」といった考えが当たり前のよう求められる時代になっています。これから皆さんが社会に飛び立つ頃には、さらに柔軟な発想力が重要視されるでしょう。実際、大手建設会社や自動車メーカーなどでは、未来を大胆に想像する“SF思考”を取り入れた「SFプロトタイピング」が実用化されています。これは、SF的な未来の物語を描くことで、そこから逆算して現在の課題を見つけ、解決策を考えるという手法です。

星新一作品は、こうした発想力を鍛える絶好の教材だと思います。学生の皆さんもぜひ、空いた時間に手に取って読んでみてください。難しい理論や専門知識がなくても楽しめ、何より超短編なので気軽に読み始められるはずです。

教員推薦図書

今年度、各学科から学生向けに推薦された図書の紹介です。図書館内の教員推薦図書コーナーに展示しています。

一般科文系

勇気論	失敗しないためのジェンダー表現ガイドブック	TOEFL iBT®テスト本番模試 3訂版 (TOEFL®テスト大戦略シリーズ)
コモンの再生(文春文庫版)	日本にレイシズムがあることを知っていますか?	
武道的思考(ちくま文庫版)	「ふ〜ん」が「これ欲しい!」に変わる 売れるコピー言い換え図鑑	公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.1
遅いインターネット(幻冬舎文庫)		公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.2
2020年代の想像力：文化時評アーカイブス 2021-23(ハヤカワ新書)	なぜ、おかしな名前はパピペボが多いのか? 言語学者、小学生の質問に本気で答える	公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.3
		公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.4
はじめての構造主義(講談社現代新書)	言語学クエスト：ことばの世界をめぐる冒険	公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.5
考える。生きるために、考える。(リベラル文庫)	SCRAP presents 謎図鑑	公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.6
ヒトの壁(新潮新書)	快読「ハリー・ポッター」	公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.7
(コミック)チェルノブイリの祈り 1巻	詳注アリス 完全決定版	公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.8
(コミック)チェルノブイリの祈り 2巻	何から何まで言ってみる 暮らしの英単語9000	公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.9
5分でわかる! 世界の偉人・超人110	英検合格のための要約問題 予想問題集：英検1級、準1級、2級対応	公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.10
アイヌもやもや		公式TOEIC® listening & reading問題集 Vol.11
中学生から知りたいパレスチナのこと	アメリカ国籍取得テストでアメリカの一般教養と英語を学ぶ	
ホロコーストを次世代に伝える		
被爆者からあなたに	公式TOEFL®英単語	

一般科理系

宇宙は数式でできている	この世界を作った奇跡のパラメータ22	University Physics with Modern Physics
宇宙する頭脳	なぜか宇宙はちょうどいい	波動ー力学・電磁気学・量子力学
不自然な宇宙	宇宙は無限か有限か	物理のためのベクトルとテンソル
ものの大きさー自然の階層・宇宙の階層(第2版)	宇宙に外側はあるか	シュレーディンガー方程式ーベクトルからはじめる量子力学入門
情けは宇宙のためならず	グリフィス電磁気学<1>	
この空のかなた	グリフィス電磁気学<2>	

機械工学科

わたしが正義について語るなら	なぜ私たちは燃え尽きてしまうのか：バーンアウト文化を終わらせるためにできること	訂正する力
行動経済力が最強の学問である		訂正可能性の哲学

電気電子工学科

デジタル移動通信の電波伝搬基礎	新しい電気回路(上)	Fundamentals of 5g Communications: Connectivity for Enhanced Mobile Broadband and Beyond
無線通信物理層技術へのアプローチ	基礎電磁気学：電磁気学マップに沿って学ぶ	
Digital communications	電磁気学	
高速デジタル信号伝送回路の設計と評価法～基礎から実践演習まで(設計技術シリーズ90)	インプレス標準教科書シリーズ 5G教科書 LTE/IoTから5Gまで	通信の数学的理論(ちくま学芸文庫 シ 25-1 Math&Science)
電気回路と伝送線路の基礎	インプレス標準教科書シリーズ 続・5G教科書 NSA/SAから6Gまで	Elements of Information Theory
新しい電気回路(下)		

情報工学科

セキュリティ技術の教科書 第3版	プログラミングコンテスト攻略のためのアルゴリズムとデータ構造	コンピュータアーキテクチャ[第6版] 定量的アプローチ
基本からわかる 情報通信ネットワーク講義ノート	体験しながら学ぶ ネットワーク技術入門	[第3版] Python機械学習プログラミング 達人 データサイエンティストによる理論 と実践 (impress top gear)
コンピュータネットワーク第6版	ゼロからはじめるLinuxサーバー構築・運用ガイド 第2版	
Introduction to Algorithms, fourth edition	動かしながら学ぶWebサーバーの作り方	サーバ/インフラエンジニアの基本 がこれ1冊でしっかり身につく本
Artificial Intelligence : A Modern Approach, Global Edition	改訂3版 これからはじめるプログラミング 基礎の基礎	
独習Python		

都市・環境工学科

珪藻観察図鑑	水環境の事典	トラブル回避のために知っておきたい ハラスメント言いかえ事典
藻類 生命進化と地球環境を支えてきた奇妙な生き物	リンの事典	
地球環境問題がよくわかる本(改訂版)	SF思考 ビジネスと自分の未来を考えるスキル	精神科医Tomyが教える 1秒で元気が湧き出る言葉
災害食の事典	エッセンシャル思考 最少の時間で成果を最大にする	「おとなしい人」の完全成功マニュアル 内向型の強みを活かして人生を切り拓く方法
フィールドワークで世界を見る 一ひと・社会・まちを知るための11のアプローチ	情報を正しく選択するための認知バイアス事典	世界の橋の秘密ヒストリア

令和6年度 読書感想文コンクール 及び 図書貸出上位者表彰式

令和6年度 読書感想文コンクール及び図書貸出上位者表彰式が、令和7年1月23日(木)に大分高専アカデミックホールにて行われました。

読書感想文コンクール入選者10名、図書貸出上位者11名に坪井校長から表彰状・記念品が贈呈されました。

また、今年度は表彰式終了後に、坪井校長、牧野図書館長を交え、懇談会を行いました。好きな作家やおすすめの本についてなど、それぞれの本に対する思いを語り合うことができ、大変有意義な時間となりました。

最後に、坪井校長から学生へ、一冊でも良いので自分にとって大切な本に出会って欲しいとお話がありました。



令和6年度 読書感想文コンクール

入選作品

母性

湊 かなえ



「母性」を読んで

1C 大石 唯莉

私がこの本を読もうと思ったきっかけは、表紙にあります。表紙に書かれてあった一言が心にひかかりました。「母の愛が私を壊した。」この一言を見て、私は、愛が人をどのように壊すのか、また、その親子関係に興味をもちました。映画化されていることもあってこの本を読んでみることにしました。

この物語は、ある女子高校生が自宅の中庭で倒れているのを発見されるところから始まります。これは事故か自殺か…と世間が騒ぎ始めます。その一方で、「母の手記」と「娘の回想」という二人の視点と「母性について」という幕間のような会話から物語は展開されていきます。ここで重要となってくるのが母と娘で同じ出来事を語っているはずが、見えている状況が全く違うということです。例えば、母が娘に両手を伸ばすシーン。母は、「娘を抱きしめた」、娘は、「母に首を絞められた」と証言しているのです。要は、どちらも真実を語っているとは言えないのです。その二人の視点から真相が導かれていきます。この親子の歪んだ愛に注目です。果たして母性とは、生まれた時から本能的に備わっているのか、育つ環境によって形成されるのかどちらなのでしょう。

私は、この物語を読んで、愛は、時に恐ろしいものになると思いました。物語の中で、女は、母と娘の二種類が存在すると主張する教師がいました。私は、物語の「母の手記」の語り手であるルミ子に着目します。ルミ子は、母へ異常なまでの愛をもち、娘でいたいという思いが非常に強くありました。その思いが強すぎたあまり、母性をなくしていたことから、二種類のうち、娘に当てはまると思います。また、「娘の回想」の語り手である清佳もまた、母に愛してもらいたいという感情から娘に当てはまることも分かります。その結果、それぞれの愛は交差せず、事件が生まれたのだと思いました。母娘の関係は、複雑であることも読み取れます。

そして、私はこの物語を読んで、ルミ子の母のようになりたいと思いました。ルミ子や清佳へ無償の愛を与え、幸せにしていたからです。しかし、ルミ子がここまで執着、依存をしていることから、私の理想像であるとは言えないのかもしれませんが。

最後に、表紙に書かれてあった「母の愛が私を壊した」とはどういう意味なのか。私はその言葉の意味をこう解釈しました。

「母の(私に向かなかつた母への)愛が私を壊した」

つまり、私からの愛が一方通行になっていたことが壊れるひとつの要因と考えられるということです。

私は、母からの愛で自分を認めるのではなく、自分自身で自分に無償の愛を与えて、認められるようになりました。

令和6年度 読書感想文コンクール

入選作品

そして、バトンは渡された 瀬尾 まいこ



バトンが繋ぐ家族の形

1C 伊達 咲人

瀬尾まいこの「そして、バトンは渡された」は、主人公の優子が様々な親たちに「バトン」を渡されながら育っていく物語です。親といっても、彼女の実の親ではありません。複数の義理の親たちとの間で生活が変わり続けるという、普通とは違う家族の形が描かれています。この本を読んで、私は家族の形や親子の関係について深く考えさせられました。

まず最初に、私はこの作品を通して家族の多様性を知ることができました。優子には血の繋がった親はいませんが、それでも彼女は様々な親に愛され、大切にされて育っています。特に印象的だったのは、義理の父である森宮さんとの関係です。森宮さんは料理が得意で、優子のために毎日心を込めて食事を作ってくれます。食事を通じて彼の優しさが伝わり、優子もまたその愛情を受け入れているのが分かります。血の繋がりはなくても、互いに支え合い、愛し合うことができるということを、この作品は教えてくれました。

また、優子が様々な環境の中で成長していく姿にも心を動かされました。普通なら、親が頻繁に変わることは不安を感じることもかもしれませんが、優子はそのたびに新しい親との生活を受け入れて、前向きに過ごしていきます。彼女が自分なりに新しい家族との関係を築いていく姿は、とても勇気があり、強い意志を感じました。私自身も、環境の変化にうまく対応できずに悩むことがありますが、優子の姿からは前向きに生きることの大切さを学びました。

この本を読んで、親という存在についても考えさせられました。世の中では、親というのは子どもを生んだ人、つまり血の繋がった存在を指すことが多いです。しかし、この物語の中で描かれている親たちは、血縁ではなくとも子どもを愛し、育てる役割を担っています。親というのは、ただ生むだけでなく、育て、愛し、支える存在であることを感じました。私も、両親に対してもっと感謝の気持ちを持ち、日々の中でその愛情を大切にしなければならぬと強く思いました。

さらに、この作品では「バトン」という象徴がとても印象的でした。親から子へ、そして次の親へと「バトン」が渡されるように、優子は様々な人に支えられながら成長していきます。このバトンという比喩は、まさに人生の中での人との繋がりや、引き継がれていく愛情を表しているように感じました。私たちも誰かから何かを受け取り、それを次の世代や周りの人に渡していく役割を果たすのだと思います。人との繋がりやその大切さについて考える良いきっかけになりました。

最後に、この作品を読んで、私は家族や親子の関係が一つの形に縛られるものではないことを学びました。血の繋がりでだけでなく、互いに支え合い、愛し合うことで本当の家族になれるということが、この物語の大きなメッセージだと思います。そして、私自身も家族や周りの人との絆を大切に、感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思います。

「そして、バトンは渡された」は、家族の意味や人生の繋がりについて深く考えさせられる作品であり、読む人に温かい気持ちを届けてくれる本です。誰かに支えられながら生きていること、その大切さに改めて気付かされました。

令和6年度 読書感想文コンクール

入選作品

あの夏が飽和する。

カンザキイオリ



心のよりどころ

1S 鶴原 杏

『何もかも、全部投げ出していいんだよ。』

昨日人を殺したんだ。14歳の流花は恋人である千尋にそう告げた。そして、彼は彼女と共に途方もない逃避行の旅に出かける。あの夏、逃避行の果てに流花は自ら命を絶った。気付いたら流花は蜷気楼みたいに、ぼやけて何処かに行ってしまったと錯覚し、彼女の死を受け入れられない千尋。その13年後、彼の前に流花の生き写しの瑠花が現れる。破滅に向かう瑠花と同級生の武命。千尋は二人を境地から救い出すことはできるのか。青春サスペンスを描いたボカロ小説である。

私はまず、武命に共感した。今年、高校に入学して環境が一変した。そして絶望した。勉強面でも生活面でも何もかも今までのように上手くいかず、過去にばかり囚われていた。感情や表情もコントロールするのが限界で、それでも、心配されたくなくて無理矢理笑顔を作って過ごす日々が続いた。この本を読んだとき、武命と自分を重ね合わせた。武命は家庭環境が最悪だったが、友達に知られたくないと思い、いつも元気に振る舞っていた。しかし、限界が来てしまい、孤独に押し潰されそうになってしまう。私も武命のように自分で強引に物事を解決しようとしていたことにはっと気付かされた。その後、周りの友人や大人に相談してみると、真剣に話を聞いてくれ、全力で助け船を出してくれた。私は、自分一人では解決できないことは、誰かに助けを求めることが大切だと思えるようになった。また、自分の本音をさらけ出すことで相手からも頼ってもらえることができると実感した。今でも会う機会が少なくなってしまった友人からも悩み事を聞いたり、アドバイスをあげたりしている。このことから、自分は独りだと思わず、相手を一度信頼してみることが大切だと考える。

さらに、私は千尋の行動力に感銘を受けた。過去を引きずりながらも同じ過ちを犯さないために前進している姿を見て心を動かされた。私は、失敗してしまうと中々立ち直ることができず、ネガティブ思考になってしまうことが多々あった。しかし、この本と出会ってからは、失敗してもそれを成功の糧へと繋げることが大切だと考えるようになった。勿論、気持ちを切り替えるのは簡単ではないし、すぐには出来なかったが、このことを意識するだけで気持ちが楽になった。今では、いつも笑顔で楽しく頑張るということを心掛けている。自分が笑顔でいると、周りも明るくなって、自然と元気になれるので実践してみたい。

最後に、冒頭で書いた『何もかも、全部投げ出していいんだよ。』という言葉についてだ。この言葉は、物語の終盤で千尋が境地に追い込まれた瑠花と武命に放った言葉である。一見、投げやりな言葉とも捉えることができるが、私はこの言葉を見た時、衝撃が走った。私は、無駄なプライドが捨て切れず、不快に思ったとしても対抗せずに、一人で抱え込んでしまうことがあった。しかし、この言葉に出会ってからは苦しくて、寂しくて、どうしようもなくなったら、建前とか遠慮とか、何もかも全部投げ出して、自分を自分で守ることが大切だと思えるようになった。けれども、全部投げ出すということは、凄く勇気が必要で難しい。そんな時は、一人で立ち向かうのではなく、仲間と一丸となることが大切だと考える。そうすることで、一人で抱え込み過ぎることを防ぐことができ、段々と自分の意見に自信が持てるようになる。

私は、この本を読んで、自分も千尋のように辛い思いをしたからこそ過去の自分と同じ立場にいる人たちを救い出してあげられるような存在になりたい。そして、自分が誰かの「よりどころ」となれるように、辛かった事も、楽しかった事も全て受け入れ、次に生かしていこうと思う。

令和6年度 読書感想文コンクール

講 評

一般科文系 国語科 広瀬 裕美子

物事に対する感じ方は、人それぞれ違っており、答えはない。勿論、本を読んだ後も、「面白かった」「イマイチだった」との感想で終始することはあるだろう。ただ、読書感想文を書く上では、一点だけ。自己照合をしてもらいたい。自己照合とは、本を読みながら登場人物の心象風景を想起し、自分だったら…と思いや考えを追究していくものである。

さて、今回、2年ぶりに1年生の皆さんの読書感想文を楽しく読ませて頂いた。皆さんが読んだ本を調査した結果、2年前と同様、東野圭吾（敬称略。以下同様。）の作品が群を抜いて多かった。また、西尾維新、湊かなえ、乙一、カンザキイオリ、赤川次郎、江戸川乱歩等、皆さんのミステリー好きな様子も窺えた。中でも今年度は、夏目漱石、芥川龍之介、宮沢賢治、森鷗外、谷崎潤一郎等、文豪による日本名作文学が例年になく数多く見受けられたのが新鮮だった。

第一位を受賞した大石さんの「母性を読んで」について。湊かなえ『母性』で集約されているのは、「女には二種類ある。母と娘。母性を持つ女と持たない女。」であり、最後に、娘清佳が言った「愛を求めようとするのが娘であり、自分が求めたものを我が子に捧げたいと思う気持ちが母性なのではないだろうか。」である。その箇所を大石さんはもれなく取り上げ、鋭く言及し、自己と照合する中で、自分が考える「母性とは何か」について辿り着いた秀逸な内容であった。また、「母の愛が私を壊した」についても、「私からの愛が一方通行であったこと」が一因だったと考察されており、その深い見解は圧巻だった。

第二位を受賞した伊達くんの「バトンが繋ぐ家族の形」について。瀬尾まいこ『そして、バトンは渡された』は、家族の形態が十七年間で七回変わった森宮優子を中心に「家族とは何か」という深いテーマを優しく穏やかに語っていくこれぞ瀬尾文学とも言える珠玉の作品である。伊達くんは、森宮壮介を通して親という存在を、優子を通して成長の様子を、そして家族の多様性を再考し、様々な側面から自分なりの家族の形を追求しているところが素晴らしかった。また「バトン」の意味についても、家族や人生の「繋がり」として熟考されており、見事であった。

第三位を受賞した鶴原さんの「心のよりどころ」について。カンザキイオリ『あの夏が飽和する』は、水原瑠花・東千尋・石田武命の心情が時系列で描かれており、中盤から人間関係や事件の真相が畳みかけるように明らかになっていくという最後まで手に汗握る作品である。その中でも、鶴原さんは、武命や千尋と自分を照らし合わせ、ミステリー特有の複雑な描写についてもわかりやすく明記されており絶妙であった。また、最後には題名にも通じる「よりどころ」にも触れ、自己考察までしっかりとなされており、その流れが鮮やかだった。

あらゆる物事に対して、明確な答えが瞬時に出てくるネット社会の現代、雲をつかむような「本を読んで感想を書く」ことに、皆さんの中には「意味あるん？」と思われる人がいるかもしれない。だが、「本を読む」ことで、登場人物への理解が日常生活での人間関係に活かされること。「感想を書く」ことで、自分の考えや想いが整理され、改めて自己認識できること。そして、「明確な答えがないものに対して、倦厭せずに時間をかけて熟考していく」ことで、AIが及ばない、人間としての感性をも磨くことに繋がると、私自身は信じている。

第69回学校読書調査（2024年全国学校図書館協議会）によると、高校生の約半分が「一か月の読書量が0冊」らしい。このような時代だからこそ、SNSに溢れた慌ただしい日々からちょっと一休みして、本の世界へ旅に出てもらえればと思っている。

読書感想文コンクールについて

学生図書委員会委員長 工藤 貴史

一年生の皆さん、お疲れ様でした。表彰台に載るような方々はやはり構成の上手さが際立っていましたね。そういった方々は普段からさぞ麗しいレポートを書いているのでしょう。ひゅー。一方で、候補に選ばなかった方々の中には落ち込んでいる人もいるかもしれません。そうです。心の中で下唇を噛んでいるそのあなたのことです。

ご存じの通り、皆さんが夏休みに取り組んだ読書感想文というのは一つの課題です。そして、それを学生に課題として科している以上は評価をしなければならず、感想という正解のない部分よりも技巧や構成といった明確な基準を立てやすい部分に焦点が当たることが多いと感じます。ただ、読書感想文すなわち文章というのは、この世に数ある表現方法の一種でしかありません。今回は課題の条件に従うため文章で表現をしなければいけませんでした。個人で何かを表現するのであればそれは必ずしも文章という形式でなくても良いはず。社会というスケールから見れば当たり前のことかもしれませんが、本の感想をダンスで表現してもいいし、本から得たインスピレーションを曲として吐き出すことも決して間違いではありません。読んだ本や触れた作品に感銘を受け、その日からもう少しだけ人に優しくしてみようというのも立派な表現です。

つまるところ、皆さんには根拠のない自信をある程度持ってもらいたいのです。当然、今回の候補者の文章は各々の感性が表現されている良いものでした。しかし、今回の読書感想文はあくまで現時点での文章表現力を比べるものです。十年後も同じランキングになるかと言われるればその限りではなく、読書感想ダンスコンテストなら順位は逆転するかもしれません。そして、皆さんが多くの作品に触れて抱いた種々の感情はそれぞれ尊いものであり、ぜひそれを表現するための試行錯誤を諦めないでほしいと思います。

令和6年度 学生図書委員名簿

学科/学年	任期	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	都市・環境工学科
1	1年	小笠原 琉 惟	坂 本 陽南太	鶴 原 杏	○甲 斐 碧 希
	前期	大 村 優 月	森 迫 京之介	兒 玉 壮 太	安 達 海 翔
	後期	松 崎 友 翔	岡 田 惟 吹	西 原 阜 喜	安 達 海 翔
	1年	岩 田 和 馬	岡 崎 結	佐 藤 陸	利 光 良 太
2	前期	藤 原 研 人	佐 藤 楠 子	坂 元 菜 月	高 橋 舞 優
	後期	藤 原 研 人	野 島 あやめ	岩 下 夢 瑠	高 橋 舞 優
3	1年	大久保 蒼	福 井 奏 太	後 藤 親 都	孫 雪 恵
	前期	福 永 煌 士	小 春 風 宥	江 上 颯 人	江 藤 愛 莉
	後期	大 杉 航 輝	小 春 風 宥	江 上 颯 人	磯 崎 沙 菜
4	1年	岡 本 朋 也	榎 野 気 把	松 山 魁	○山 口 龍 斉
	前期	池 田 一 心	蘓 野 太 樹	平 川 晴 己	後 藤 陽 成
	後期		廣 瀬 優唯斗	宮 脇 優 真	後 藤 陽 成
5	1年	◎工 藤 貴 史	南 潤之介	足 立 舞	高 山 恵 瑚
	前期	○立 花 太 一	平 山 大 智	衛 藤 匠 史	向 井 鼓 太 朗
	後期	○立 花 太 一	平 山 大 智	鳥 居 虹 海	向 井 鼓 太 朗

* 図書委員は上段が1年任期 ◎ 学生図書委員長 ○ 学生図書副委員長

令和6年度 読書感想文コンクール入選者

	クラス	氏 名	作 品 名	書 名
第1位	1C	大 石 唯 莉	「母性」を読んで	母性
第2位	1C	伊 達 咲 人	バトンが繋ぐ家族の形	そして、バトンは渡された
第3位	1S	鶴 原 杏	心のよりどころ	あの夏が飽和する。
佳作	1M	沖 村 禮 司	雑貨店を尋ねて	ナミヤ雑貨店の奇蹟
//	1M	首 藤 直 弥	古文を今の世界に	超新釈 5分後にエモい古典文学
//	1E	永 松 春 香	妄想	檸檬
//	1E	三 代 健 太	「成瀬は天下を取りにいく」を読んで感じたこと	成瀬は天下を取りにいく
//	1S	久 知 良 亮 太	海神丸を読んで	海神丸
//	1S	立 花 一 真	「高瀬舟」と現代	山椒大夫・高瀬舟
//	1C	羽 田 野 紗 七	自分らしく生きるとは	武士とジェントルマン

令和6年度 図書貸出上位者

順位	クラス	氏 名	貸出冊数
第1位	5M	中 野 哲 志	146冊
第2位	5C	庄 野 佑 衣	122冊
第3位	1AMC	江 藤 光 太 郎	118冊
第4位	5M	宮ノ内 康 太	102冊
第5位	5M	工 藤 貴 史	85冊
第5位	4C	山 口 龍 斉	85冊
第7位	2E	野 島 あやめ	74冊
第8位	2S	佐 藤 陸	55冊
第8位	1AMC	藤 澤 孝 吉	55冊
第10位	2E	福 田 聡 也	54冊
第10位	5C	野 下 木 乃 香	54冊

※図書貸出上位者の集計期間は、2024.01~2024.12



R6.11.11 ブックハンティング (くまざわ書店 大分明野店にて)

編集後記

「図書館だより」第3号が完成しました。図書館が年2回発行している「明野通信」もそうですが、「図書館だより」発行にも教職員や学生の皆様のご協力をいただいております。なぜか今年度も図書館長補佐に任命され、2年連続で「図書館だより」発行に携わることになり、そのことを痛感しております。原稿を書いてくださった方、全過程に関わってくださった図書係の皆様に、心よりお礼申し上げます。

図書館長補佐 田中 美穂